

むなく自分の乳をふくませたところ、不思議にも母親の乳のようになり、子供の空腹を満たすことができました。そして、無事に心のやさしい元気な子どもに育てることができました。

3. 朝日観音を深く信仰していた道場宿の新吉は、朝日観音の縁日の帰り、ほろ酔い気分で鬼怒川のほとりまでやって来ました。すると突然、草むらに隠れていた賊が、新吉めがけて、剣を抜いて襲いかかってきました。あわてた新吉は、ほろ酔い気分もふき飛んでしまって、川沿いにある船着き場まで夢中で逃げたけれども、どうしたわけか、その日に限って船がありません。追いつめられた新吉は、ただただ一心に朝日観音に祈り川に飛び込みました。

すると、不思議なことに、水中に一度沈んだ身体は、浮き、川の上に立つことができました。そして地面の上を走ると同じように、鬼怒川の川面を走って、向う岸まで渡ることができました。賊もこの不思議な光景には、ただぼう然とするだけでした。

4. 安永2年、西原組屋敷から出火し、宇都宮41町が全焼するほどの大火の時、朝日観音を信仰していた大工の平助は、火に追われて、命からがらやっとの思いで観音堂の前まで逃げてきました。しかし、火の勢いは増々激しくなり、お堂のまわりは、真赤な火の粉が舞い踊り、建物のくずれる音は、雷のようでした。

死を覚悟した平助は、地面に顔を付け、身を小さくして、観世音の名を繰り返し、繰り返し唱えました。

すると、不思議なことに、突然、お堂と平助のまわりの火の勢いは、波が引くように、遠のいていき、助かることができました。



2 あざ 地 蔵

伝承地：徳次郎町

参考書籍：33



(痣地藏)

徳次郎町中町の日光街道沿いに、痣地藏堂と呼ばれているお堂がある。ここは、むかし、神宮寺といわれ、このお堂の中に、痣地藏が安置されている。

お地藏さんにまつわる話しは数多いが、この痣地藏は、あざやいぼで困っている者が願をかけるとすぐなおるとされているものである。

この地藏は、変った姿の地藏で、近隣の村はもとより、遠く茨城県のあたりからもおとずれたという。

比沙門山の西側の開懸の際に地中から発見され、智賀都神社に安置された後、現在地に移されたといわれている。

